

**案件別事後評価(簡易版)評価結果票:無償資金協力**

評価者(所属)	中込 昭弘、志村 明美(アーンスト・アンド・ヤング・アドバイザリー株式会社)	作成年月日
案件名	(和) マジュロ病院整備計画	2010年2月～2010年12月
	(英) The Project for Improvement of the Majuro Hospital	

**I 案件概要**

国名	マーシャル諸島共和国		
事業期間	2002年10月～2005年12月		
実施機関	マーシャル諸島共和国保健省		
事業費	E/N 限度額: 988 百万円		供与額: 977 百万円
案件従事者	施工・調達	(施工) 東海興業株式会社	
	コンサルタント	株式会社 梓設計	
基本設計調査	2002年10月～2003年7月		
関連案件	研修員受入(マジュロ病院副看護師長、2003年)		
事業背景	マーシャル国の首都マジュロにある国立マジュロ病院は、地域の住民に対し第一次医療を提供していると同時に、同国における中核病院の1つとして位置付けられている。しかしながら、マジュロ病院の施設の老朽化が著しく、医療機材も耐用年数を超えて使用されているものも多く、ニーズに応じた保健医療サービスの提供に支障が生じていた。さらに、検査や療養のため、患者を国外に搬送するケースも多かった。このため、マジュロ病院が提供する保健医療サービスは、質・量両面で改善が求められていた。資金不足により施設の本格的な整備や必要な医療機材の調達が困難であったことから、本事業によって、マジュロ病院の外来診療部門を中心とする施設及び機材を整備した。		
事業目的	マジュロ環礁および周辺地域の中核病院であるマジュロ病院において、外来診療部門を中心とする施設及び機材を整備することにより、マジュロ環礁および周辺地域の住民約3万人に対する保健医療サービスの改善を図る。		
アウトプット (日本側)	建物施設		主要機材
	ビルディング1	鉄筋コンクリート造、2階建	放射線部 X線撮影装置 外来診療部 超音波診断装置
	ビルディング2、ビルディング3、付属棟	鉄筋コンクリート造、平屋建	救急部 人工呼吸器、手術台、患者モニタ、電気メス 歯科 歯科ユニット、歯科パノラマX線装置

**II 評価結果(評価5項目)**

総合評価
<p>本事業はマーシャル国の開発政策上、重点が置かれている医療分野について支援を行っているものでマーシャル国の開発政策や開発ニーズ、及び我が国の援助政策とも整合しており、事業としての妥当性は高い。また、外来診療部門への新たな医療機材の導入で計画時には行えなかった検査や呼吸管理が行われるようになったこと、建物面積の拡張で業務の効率化や効果の向上等が達成されたことから、概ね計画通りの効果が得られており、効率性、有効性・インパクトも高いと判断される。しかし、実施機関より、導入した医療機器の保守管理体制及び運営費予算の財源確保に関する情報等、本事業の持続性について判断するために十分な情報を入手することができなかった。</p> <p>有効性及びインパクトの評価結果より、このプロジェクトは概ね十分なアウトカムを産出したと評価される。</p>

**1 妥当性**

1. マーシャル国開発政策との整合性

マーシャル国の開発計画「ヴィジョン2018」において、保健省は全てのマーシャル人に対して高品質で効果的で能率的な保健サービスを提供するために、施設、スタッフ、資源を有効利用するとしている。また、保健省が作成した「15カ年戦略計画(2001-2015年)」によると2005年度までに施設建設、医療機器の設置、適切な医療スタッフの配属によりマジュロ病院の機能改善を図ることを目標としていた。これらの開発政策は計画時から事後評価時にかけて変更はなく、計画時及び事後評価時ともに本事業との整合性は高い。

2. マーシャル国開発ニーズとの整合性

マーシャル国では、人口の増加や都市化による生活環境の悪化や生活習慣の変化により、人々への医療サービスのニーズが増加していた。マジュロ病院は第一次、第二次医療レベルを担う2か所の国立病院の1つであり、マーシャル国における保健医療サービスの中核として位置付けられていた。しかしながら、資金不足により施設や医療機材の更新がなされておらず、適切な医療処置に支障が出ていた。よって、本事業によるマジュロ病院の整備改善はマーシャル国の開発ニーズとの整合性が高い。

3. 日本の援助政策との整合性

我が国は1914年から1945年までマーシャル国を南洋諸島の一部として統治し、現在も友好的な関係にある。また、我が国水産業界と密接な関係にあり、経済的自立の達成に向けて我が国援助への期待感が高い。また、2003年5月に開催された太平洋・島サミットで掲げられた5つの重点政策目標の1つとして「保健及び衛生の改善」が含まれており、そのファクト・シートで本プロジェクトが具体的な支援プロジェクトとして挙げられていることから、本事業は日本の援助政策と整合性が高い。

以上より、本事業の実施はマーシャル国の開発政策、開発ニーズ、日本の援助政策と十分に合致しており、妥当性は高い。

**2 効率性**

1. アウトプット

日本側のアウトプットは計画どおりであった。

2. 事業期間

1期2期を通算した延べ事業期間は、計画32ヶ月に対して実績35ヶ月で、計画を若干上回った(計画比109.4%)。これは、定期貨物船を就航していた船会社が撤退し必要資材の搬入が遅れた影響である。

### 3. 事業費

計画額995百万円に対して実績977百万円であり、計画内に収まった(98.2%)。

以上より、本事業は事業期間が計画を上回っているものの、上記の理由から妥当であると考えられ、総合的に判断し、効率性は高い。

## 3 有効性・インパクト

### 1. 定量的効果

本事業で機材が導入されたことにより、腹部泌尿器超音波診断、人工呼吸器による呼吸管理、歯科X線装置による歯列診断が実施できるようになった。尚、腹部泌尿器超音波診断及び歯科X線装置による歯列診断については事前評価時の目標値には達していないが、診断を必要とする患者数が少なかったためと考えられる。

### 2. 定性的効果

実施機関によると、本事業で施設が新築されたことにより臨床検査部門や救急部門のスペースが拡大し、業務の効率化、効果の向上が図られたとのことである。また、外来患者専用の待合コーナーが新設されたことにより、病院内の混雑が緩和されている。

### 3. 間接的効果の発現状況及びその他正負の間接的効果

(自然環境へのインパクト、住民移転・用地取得、その他正負の間接的効果)

医療廃棄物、排水等は適正に処理されており、自然環境へのインパクトはない。

本事業の実施にあたり、住民移転・用地取得は必要とされなかった。

以上より、本事業の実施によりおおむね計画通りの効果発現が見られ、有効性は高い。

## 4 持続性

### 1. 運営維持管理の体制

実施機関で組織再編が行われたが、本事業実施時の管理職の多くはマジュロ病院にとどまっている。また、実施機関によるとほとんどの部署で人員は充分であるとのことで、運営体制については問題がない。

保守管理体制については、実施機関からの質問票の回答によると、点検・修理台帳やマニュアル等を保守管理に役立てており、必要な場合には導入機材の販売代理店と連絡を取る体制を整えているとのことである。しかし、その一方で、マジュロ病院では医療機器の修理技師が不足している、予算が限られているためメーカーとのメンテナンス契約を結べないといった課題があるとの回答も得ており、十分な保守管理体制が取られているかどうかについては判断できない。

### 2. 運営維持管理の技術

実施機関によると、導入された医療機器は使用に特段の技術を要するものではないため研修は実施していない。保守管理については修理技師が必要な技術を持っているため、技術上の問題はないと判断される。

### 3. 運営維持管理の財務

実施機関に対し本案件実施後のマジュロ病院の収支状況を問い合わせたが、診療報酬等の自主財源がどの程度あるのか等に関する十分な情報を入手することができなかった。また、今後の政府からの予算割当や諸外国からの資金援助といったその他の財源確保の見通しについても回答を得られなかったため、財務面での持続性については判断できない。

### 4. 運営維持管理状況

実施機関からの質問票の回答によると、マジュロ病院は当初の計画通りに運営されており、導入された機材も全て継続的に使用されているとのことである。また、実施機関からの質問票の回答によると瑕疵検査時に指摘された建物設備に関する発見事項は改善されており、日常的な保守管理は行われている。

以上より、体制面、財務面の評価に必要な情報が入手できなかったことから、本事業の持続性については評価できない。